

2025 年度臨床研究の承認状況

承認番号		課題名	研究責任者	共同研究者	研究の概要
ER2025-001	承認	内視鏡検査における鎮静剤の有用性と安全性を検討する単施設観察研究	若槻 俊之	佐藤 知子 何本 佑太 鳥羽 潤	<p>内視鏡検査における鎮静法としては、一般にミダゾラム単回静注が用いられているが、過度の呼吸抑制を伴う深い鎮静が発生することも時として経験される。また検査後はモニタリングによる経過観察を行っているが、一定時間を経過しても退室基準を満たさない症例も認められる。今年、新たに保険収載されるレミマゾラムはベンゾジアゼピン結合部位に作用する、超短時間作用型ベンゾジアゼピン系静脈麻酔薬であり、ミダゾラムよりも半減期が短く、作用が遷延しづらい特徴を有している。</p> <p>目的は内視鏡検査下におけるミダゾラムおよびレミマゾラム静注による有用性と安全性を検討すること。主に検査後の時間経過による覚醒程度、退室基準を満たす患者の割合について検証する。</p>
ER2025-002	承認	日本整形外科学会症例レジストリー（JOANR）構築に関する研究	川口 善治 <small>（日本整形外科学会 理事）</small>	秋山 治彦 <small>（岐阜大学附属病院）</small> 中田 研 <small>（大阪大学附属病院）</small>	<p>本研究の目的は、運動器疾患の手術に関する大規模データベースの構築です。整形外科手術の件数は年間 120 万件を超えており、社会の高齢化の影響を受けて年々増加の一途を辿っていますが、全国規模での手術登録システムが存在しないため全容が不明のままです。人工関節、骨固定材料など体内埋込型医療機器を長期間体に埋め込んだままにする手術が多く、その実施状況と治療成績に関する情報を収集することは、医療の質の向上や医療費の適正化などに必要なものです。</p> <p>本研究を実施することの適否について倫理的、科学のおよび医学的妥当性の観点から日本整形外科学会倫理委員会が審査し、理事長による承認を得て実施されます。</p>

ER2025-003	承認	診療情報管理士の視点から糖尿病診療の質向上への取り組み	大森 俊明	一瀬 直日	糖尿病診療の質向上を目的に管理ツールとして電子カルテの機能で「糖尿病管理サマリー」を開発した。医師だけでなく患者にもたらした効果などを医師へのアンケート調査と使用状況を調査の上、報告する。
ER2025-004	承認	当院予定外入院患者における冷房装置の設置、使用状況に関する調査、前向き研究	角南 和治	高橋 淳 尾崎 ちなみ 富家 朱代 一瀬 直日 植木 千代	近年の猛暑による健康への影響が懸念されている。2024年に熱中症による入院患者の冷房使用状況を調査したところ、冷房がない、あるいは使用していない患者がすくなく認められた。そこで冷房の使用状況と予定外入院の関係を調査することにより、熱中症にかぎらず、暑熱が健康に与える影響について調査し、療養に役立てるとともに広く社会に発信することを目的に調査、研究を行う。
ER2025-005	承認	EMS 刺激による CKC 脚伸展筋出力値の変化	草地 海翔	山内 陽菜 近藤 哲 河村 顕治 <small>(吉備国際大学 保健科学研究科 吉備国際大学学長)</small>	立ち上がりや歩行などの日常生活動作の多くは閉運動連鎖(closed kinetic chain : CKC)で構成されており、膝関節を保護するためには、大腿四頭筋とハムストリングスの共同収縮を引き出すことが重要である。本研究では、CKCトレーニングベルトと張力計を用いた方法による脚伸展筋出力測定時に、微弱な随意収縮を筋電図としてモニタリングし、それに合わせて同じ筋内に電気刺激を与えてアシストする機器である IVES を使用し、筋肉の自然な収縮を増幅させる。そして、脊髓回路の反応による大腿四頭筋への筋活動の解析ならびに脚伸展筋出力の変化を測定し、脚伸展筋出力のメカニズムを解明する。
ER2025-006	承認	ノーリフトケア実践病院での比較研究	亀井 透	伊藤 泉 桃谷 雅彦 後安 元三 草地 海翔	本研究の目的は、医療・介護現場に勤務する職員を対象に、作業姿勢や日常的な運動習慣、ストレッチ実施の有無やスライディングシートの活用などの用具使用が、腰痛の有無との関連を明らかにすることである。そこで、2023年および2024年の2時点での調査結果を比較し、ノーリフトケアや作業環境の整備が腰痛の予防や軽減に寄与しているかを検証することを目的とする。